GIGAスクール はじめて日記 3

情報端末持ち帰り

▶堀田龍也・山本朋弘・佐藤和紀・三井一希［編著］

さくら社

はじめに　山本朋弘 ●中村学園大学教育学部・教授

主体的な学びを支援するために

本書は、児童生徒の主体的な学びを支援することをめざし、1人1台の情報端末の持ち帰りをこれからスタートする学校や、地域に参考となる内容を提供します。日頃から持ち帰りを実践している学校の好事例を紹介し、その進め方のポイント・留意点を解説します。

1 GIGAで整備は進んだが

GIGAスクール構想によって、公立小中学校において、児童生徒1人1台の端末環境やクラウド環境が提供され数年が経とうとしています。GIGAスクール構想によって、最先端技術を用いた教育やスタディログ等によるデータの蓄積が期待されています。

しかし、こうした環境整備が進む一方で、地域や学校において、その取り組みの質的な格差が生じています。1人1台の情報端末やクラウド環境が授業で活用されるようになってきましたが、それらの授業はいまだに教師主導の授業であり、従来の授業を延長した実践が見られます。

現状では、児童生徒の学びを中心に据えた授業での活用とは言い難いのです。学校現場において、教師主導の授業から子ども主体の授業へと授業観を転換し、1人1台端末やクラウド環境を児童生徒の学習に積極的に取り入れ、個別最適な学びや協働的な学びを構築することが期待されています。

2 家庭への持ち帰り

1人1台の情報端末を家庭に持ち帰り、家庭と授業をつないだ児童生徒中心の学びを生み出す好事例も見られるようになりました。それらの好事例では、従来の学力観にとらわれず、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力といった、新時代に必要な資質・能力を育成することを目指しています。

児童生徒の学びが、授業に止まらず、家庭や地域といった授業以外での場面とシームレスにつながっていくことで、主体的・対話的で深い学びの実現が期待できます。そして、1人1台端末とクラウド環境を積極的に活用することで、これらの授業と授業以外が連続した学びを支えることが可能となります。

これらの好事例は、授業者目線で見ていく必要があります。好事例を生み出した実践者が事例を紹介して、学校現場の多くの教員が学び取ることは、研修等でも有効であり、今後授業改革に取り組もうとする学校や自治体にとって貴重な実践成果と言えます。

3 児童生徒の主体的な学びが目的

各地域や各学校で、端末を持ち帰る活動を推進する動きが出てくるようになってきました。これは、GIGAスクール構想で整備した環境を有効活用する上でも重要ではあります。

しかし、「なぜ、家庭に情報端末を持ち帰る必要があるのでしょうか？」そのことをしっかり考えておくことが必要だと感じています。

そもそも、端末を家庭に持ち帰ることそのものが、取り組みの目的ではないはずです。家庭や地域において、児童生徒が主体的に学習を進めるためのツールとして、情報端末を持ち帰り、学習を展開するわけです。

例えば、これまで課題として、紙で配付したドリルプリントに取り組ませていましたが、そのドリルをデジタル化して取り組ませることも必要かもしれません。しかし、それに止まらず、児童生徒が学習ツールとして情報端末を自ら選び、家庭や地域での学びに主体的に活かしていくことが求められています。

4 できそうな事例から

情報端末の持ち帰りをどう進めたらよいか？ 何からはじめたらよいのか？ そういった質問や悩みを学校や教育委員会からいただきます。それらの悩みを解決できるよう、本書で取り上げる事例は、持ち帰りがはじめての学校やクラスでも取り組みやすい実践内容となっています。また、家庭での学習が児童生徒主体へ移行できるよう、スモールステップで進められるように構成しています。

さらに、どのような特徴があるのか、どのような点に配慮して進めればよいか、編者がわかりやすく解説するようにしています。

5 日頃の環境を活かす

GIGA スクール構想では、1 人 1 台端末と同時に、クラウド環境が整備されていますから、児童生徒が授業で情報端末を活用する際、クラウド環境を日頃から活用しているはずです。そのクラウド環境を家庭や地域でも活用することで、日頃の環境を活かして、スムーズな活用が展開できます。

本書では、日頃児童生徒が活用しているクラウド環境として、Chromebook と Google Workspace for Education を活用した事例を取り上げます。多くの学校や地域で参考にすることが可能となります。

6 本書の構成

本書は、まずは編者による解説を示して、その後に、具体的な事例を紹介するよう構成しています。

「授業や家庭学習をつなぐ教育 DX」では、なぜ、情報端末を家庭に持ち帰って学習するのか、その社会的な背景や活用の必要性について提示しています。ここでは、東北大学大学院の堀田龍也教授に解説いただきます。

次に、「情報リテラシーと保護者の連携」では、家庭での活用に関する ICT スキルアップと保護者の理解や連携について説明しています。ここでは、信州大学教育学部の佐藤和紀准教授に解説いただきます。

さらに、「授業と家庭の学びをつなぐ」では、Google for Education を活用した事例ブック、Web サイト との連携について提示しています。ここでは、山梨大学教育学部の三井一希准教授に解説いただきます。

そして、「授業と家庭学習をつないだ実践事例」を紹介していきます。小学校 23 件、中学校 11 件の合計 34 件の実践事例を記載しています。これらの事例は、普段から情報端末を持ち帰っている学校や地域で実践されています。特別に実践したものではありませんので、これからスタートする学級でも取り組みやすい内容です。

【コラム】では、地域全体で進めるポイントを、先進的に取り組んでいる 3 つの自治体の担当者が説明しています。学校や地域での格差を生まないように、自治体関係者が参考にしてほしい内容です。

最後に、授業と家庭学習をつなぐパターンとして、4 つの類型でまとめています。持ち帰りの全体像を把握し、学校や地域全体で進めていく際の参考となる資料です。

くり返しになりますが、これから持ち帰りをスタートする学校や地域で参考にしていただき、子どもたちの主体的な学びを支援してほしいと考えています。

もくじ

GIGA スクールはじめて日記 3
情報端末持ち帰り

はじめに：主体的な学びを支援するために …… 3

概説

授業や家庭学習をつなぐ教育 DX

①情報端末の持ち帰りを考えるために家庭学習の意義を再確認する …… 10
②情報端末の持ち帰りによる家庭学習の現状と方向性 …… 13

情報リテラシーと保護者の連携

①学校で情報活用能力を育成する …… 16
②家庭でも情報活用能力を育成するために …… 20

授業と家庭の学びをつなぐ

①授業と家庭の学びをつなぐステップ …… 24
②学校の学びと家庭の学びをつなげるヒント集 …… 29

授業と家庭学習をつないだ実践事例

小学校

事例 01 社会科（5年） …… 34
家庭で情報の収集

事例 02 全教科等（3年～） …… 36
家庭で学習の振り返りを

事例 03 算数科（4年） …… 38
情報端末を用いた反転授業

事例 04 体育科（3年～） …… 40
体育での映像による学び

事例 05 理科（6年）…… 42
理科学習 Google スライド™ まとめ

事例 06 外国語科（6年）…… 44
スピーチ共有による課題の明確化

事例 07 社会科（5年）…… 46
家庭で！ 授業で！ デジタルノート

事例 08 算数科（5年）…… 48
自由に交流できる家庭学習

事例 09 特別活動（4年 / 宿泊行事）…… 50
宿泊行事のしおりを Google ドキュメント™ で作成

コラム 地域全体で進めるポイント 1（長野県飯田市）…… 52
飯田市の 1 人 1 台端末の持ち帰り実施に向けた取り組み

事例 10 全教科等（3年～）…… 54
「書く力」とタイピングスキルの育成

事例 11 総合的な学習の時間（5年）…… 56
地域のよさを再発見する家庭学習での端末の活用

事例 12 全教科等（全学年）…… 58
選択式家庭学習

事例 13 体育科（2年）…… 60
ステップ表を見て、前転に取り組もう

事例 14 家庭科（6年）…… 62
家庭での調理実践を共有

事例 15 道徳 / 学級活動 / 総合的な学習の時間（3年～）…… 64
情報モラルの授業での学びを保護者に伝えよう

事例 16 授業時間外（3年～）…… 66
Google Chat™ やスペース機能で自主学習を支援しよう

事例 17 生活科（2年）…… 68
生活科の野菜の成長記録を家庭でも

コラム 地域全体で進めるポイント2（山梨県甲府市） 70
自治体としての端末持ち帰りの取り組み

事例18 音楽科（3年〜） 72
家で楽しくリコーダー練習

事例19 社会科（3・4年） 74
Google フォームでおさらい！ 地域学習

事例20 算数科（全学年） 76
学びを広げる！ つなげる！ 深める！

事例21 全教科等（5年 / 長期休業中） 78
「なんでも提出 BOX」でつながろう！

事例22 算数科（5年） 80
Google Jamboard™ を使ったポートフォリオ作成

事例23 授業時間外（5年） 82
自主学習を 1 人 1 台学習者用端末で

解説 小学校における家庭学習の分類 84

中学校

事例24 外国語科（2年） 88
英単語ドリルの練習成果を共有しよう

事例25 総合的な学習の時間（1年） 90
家庭で調べ学習・まとめ学習

事例26 特別活動（1年） 92
学年のプロジェクトを Chat を使って動かす

事例27 社会科（1年） 94
夏休みの課題で地域の歴史ある場所をスライドにまとめる

事例28 技術科（2年） 96
学習者のペースで取り組むプログラミング学習

事例 29 家庭科（1年）…… 98
「自作弁当の日」に向けた自由進度学習

事例 30 授業時間外（全学年 / 生徒会活動）…… 100
生徒が当たり前に使えるツールに

事例 31 授業時間外（全学年）…… 102
保護者と共に

事例 32 技術科（3年）…… 104
協働的な家庭学習で技術科の資質・能力を育成

事例 33 社会科（2年）…… 106
身近な地域の調査

事例 34 総合的な学習の時間（5～9年）…… 108
地域の魅力を動画で発信しよう!

コラム 地域全体で進めるポイント3（熊本県高森町）…… 110
自立した学習者の育成を目指す高森町の教育 DX

解説 中学校の事例まとめ…… 112

Q&A 教員や保護者が抱える悩みに答える…… 116

まとめ：授業と家庭学習をつなぐパターン…… 120

そもそもどうして、持ち帰り?

概説

授業や家庭学習をつなぐ教育 DX

堀田龍也 東北大学大学院情報科学研究科・教授 / 東京学芸大学大学院教育学研究科・教授

情報リテラシーと保護者の連携

佐藤和紀 ●信州大学教育学部・准教授

授業と家庭の学びをつなぐ

三井一希 ●山梨大学教育学部・准教授

授業や家庭学習をつなぐ教育 DX ①

堀田龍也　東北大学大学院情報科学研究科・教授／東京学芸大学大学院教育学研究科・教授

情報端末の持ち帰りを考えるために家庭学習の意義を再確認する

情報端末の持ち帰りによる家庭学習には、どんな学習が期待されているのでしょうか。
このことを考える前に、そもそも私たちは何を期待して家庭学習を課してきたのでしょうか。
ここでは、家庭学習の意義について学習指導要領をもとに再確認します。

1 はじめに

この書籍は、情報端末の持ち帰りによる家庭学習について、その考え方や実践を紹介するものです。

そもそも、情報端末の持ち帰りによる家庭学習では、どのような学習が期待されているのでしょうか。

この問いに答えるために、ここではまず、従来の家庭学習は何のために行われていたのかという点から再確認していきましょう。

なお、ここでは「家庭学習」と呼びますが、学ぶ場所は家庭に限らず、学童や児童クラブなどで放課後に学習する場合も含めています。

2 学習指導要領における「家庭学習」

そもそも家庭学習は、学習指導要領にはどのように位置付けられているか、考えてみたことはあるでしょうか。

小学校学習指導要領には各教科等の目標や内容が書かれていますが、その前に総則という章があり、ここには学校の教育課程全体に関わる事項が書かれています。小学校学習指導要領の総則の第 1 章「総則」の第 1「小学校教育の基本と教育課程の役割」2 の (1) には、以下のような記述があります（以降、下線は筆者）。

> **基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力等を育むとともに，主体的に学習に取り組む態度を養い，個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際，児童の発達の段階を考慮して，児童の言語活動など，学習の基盤をつくる活動を充実するとともに，家庭との連携を図りながら，児童の学習習慣が確立するよう配慮すること。**

この部分の詳細な説明は、小学校学習指導要領解説総則編に第 3 章「教育課程の編成及び実施」の第 1 節「小学校教育の基本と教育課程の役割」の 2「生きる力を育む各学校の特色ある教育活動の展開」の (1)「確かな学力」に、次のように示されています。

> **加えて本項では，「家庭との連携を図りながら，児童の学習習慣が確立するよう配慮すること」の重要性を示している。小学校教育の早い段階で学習習慣を確立することは，その後の生涯にわたる学習に影響する極めて重要な課題であることから，家庭との連携を図りながら，宿題や予習・復習など家庭での学習**

課題を適切に課したり，発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりするなど家庭学習も視野に入れた指導を行う必要がある。

これらの記述をもとに、家庭学習について整理しておきましょう。

まず、小学校学習指導要領そのものに「家庭学習」という用語はありません。近い言い回しとして「家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮すること」という表現があります。このことについて小学校学習指導要領解説では「家庭学習」という用語を用いて「家庭学習も視野に入れた指導を行う必要」という説明をしています。

これらの文章から、家庭学習の目的とするところは、学習習慣の確立にあることが分かります。従来の家庭学習では、一般には学力の補充が第一の目標のようなイメージがあるかも知れませんが、少なくとも学習指導要領上では学習習慣の確立が優先されていることになります。また、学習習慣の確立のために「宿題や予習・復習など家庭での学習課題を適切に課」すことと「発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりする」ことの 2 点が例示されています。前者は学力の充実にあたることですが、後者は自律的な学び方の習得や、自己調整学習につながる能力の育成を期しているのです。

見逃してはならないのは「小学校教育の早い段階で学習習慣を確立することは、その後の生涯にわたる学習に影響する極めて重要な課題である」という記述です。学習指導要領に明記されている学習習慣の確立は、生涯にわたって学び続けることになる今後の時代を生きていく児童生徒に大きな影響を与える「極めて重要な課題」なのです。しかも「小学校教育の早い段階で」と書かれています。とても重い表現です。

「家庭との連携を図りながら」であるから、家庭学習の主な責任主体はあくまで学校であり、家庭は連携を図る存在であることが分かります。また「家庭学習も視野に入れた指導」という表現がこれを支持しています。

ちなみに、中学校学習指導要領にも「家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮すること」という表現があります。また中学校学習指導要領解説の総則編には「小学校教育の早い段階で学習習慣を確立」の代わりに「小・中学校を通して学習習慣を確立」と書かれており、義務教育段階で一貫して学習習慣を確立するために家庭学習が奨励されていることが分かります。

まとめましょう。大切なことは、家庭学習の目的は学習習慣の確立であり、それは生涯にわたる学習に影響する極めて重要なことだということ。毎日の家庭学習は、実は遠くを見据えた目的のためのものなのです。

3「家庭学習」の内容の再点検

では、家庭学習で一般的に課されている内容について、学習指導要領に示された家庭学習の目的の観点から吟味していきましょう。

小学校学習指導要領解説において学習習慣の確立のために例示されているのは、「宿題や予習・復習など家庭での学習課題を適切に課」すことと「発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりする」の 2 点でした。

まず、前者から検討していきましょう。

「宿題や予習・復習」と書かれていることから、宿題と予習・復習は区別されていることが分かります。従来の宿題とは一般に、授業の補完のために課された課題であることが多いでしょう。それに対して予習・復習は、

児童生徒が自律的に取り組むべきこととして位置付いているわけです。

家庭での学習課題を適切に課すのは教員の役割です。「適切に」というのは、授業との連動への配慮や、児童生徒にとって過負担にならないような配慮といったことでしょう。学習課題を課した以上、それが達成されているかを確認することも教員の責任の範疇です。もちろん教員にとっても過負担にならない確認の仕方の工夫が必要です。たとえば、提出チェックは係活動に位置付けている学級もあるでしょうし、答え合わせは自己評価として各自に行わせるようにしている学級もあるでしょう。ただでさえ多忙な教員が、丸付けに翻弄されているようでは本末転倒です。

続いて後者の「発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりする」を検討していきましょう。

学習計画の立て方について、授業等を通して指導している学級はどの程度あるでしょうか。学習計画を自分で立てるスキルは、自己にとっての問題の発見と、その解決のための実行の段取りを立てるということです。まさに自己調整学習の能力につながる重要なスキルです。仮に教員が宿題を決めて与えるだけで、児童生徒から見たら単なるノルマなのだとしたら、学習計画の立て方を促すことにはほど遠いということになります。

次に「学び方を促したりする」はどうでしょうか。宿題や予習・復習は、自分の学習をよりよく達成させるために必要な方法であり、だからこそ学校外でも課されています。児童生徒がそのことを理解し、宿題や予習・復習に関する自分の進め方を自覚的に振り返るような仕組みづくりが重要になります。

学習計画の立て方の指導も学び方を促す指導も、学習内容そのものではなく、学習方法とそのメタ認知に関わるスキルの育成です。日々の家庭学習が、生涯にわたって学ぶことになる児童生徒の学びの推進力を養っているということです。

これらのスキルは、当然ながら最初から身についているものではありません。まさに「発達の段階に応じ」て育成されるべきことです。ならば余計に教員の役割は重要です。自分の学級の状況について、全体的にどの程度のスキルが育ってきているかということの見極めだけでなく、個々の児童生徒によってどの程度のバラツキがあるか、個に対応したスキル育成にどれだけ目を配っているかがポイントになります。

最後に、定められた分量やペースで宿題などのノルマをこなしていくということについて検討しておきましょう。

本来的には児童生徒がその分量やペース配分を自己決定できるようにしていくことが望まれます。それができることが学習計画の立て方が備わったということですから、最初は一律の課題量だとしても、慣れていくにつれて次第に数日単位で分量やペース配分を決めさせたり、どの課題を先にやるかなどの学習順序を決めさせたりするような柔軟な仕組みが必要です。

また、どちらかというと学力が十分ではない児童生徒にとっては、取り組む意欲がわきにくかったり、場合によってはつじつまを合わせるために解答を丸写ししてしまったりするなどの現象も生じます。これでは家庭学習の意味が失われてしまいます。

このことこそが「家庭との連携を図りながら」行うべき点です。教員は学習課題と同時に身につけさせたいスキル等を児童生徒や保護者に開示し、家庭の協力が得られるようにする配慮を忘れてはなりません。

みんな、どんなことに使ってる?

授業と家庭学習をつないだ実践事例

小学校での実践 23 事例

中学校での実践 11 事例

コラム◆地域全体で進めるポイント

長野県飯田市
山梨県甲府市
熊本県高森町

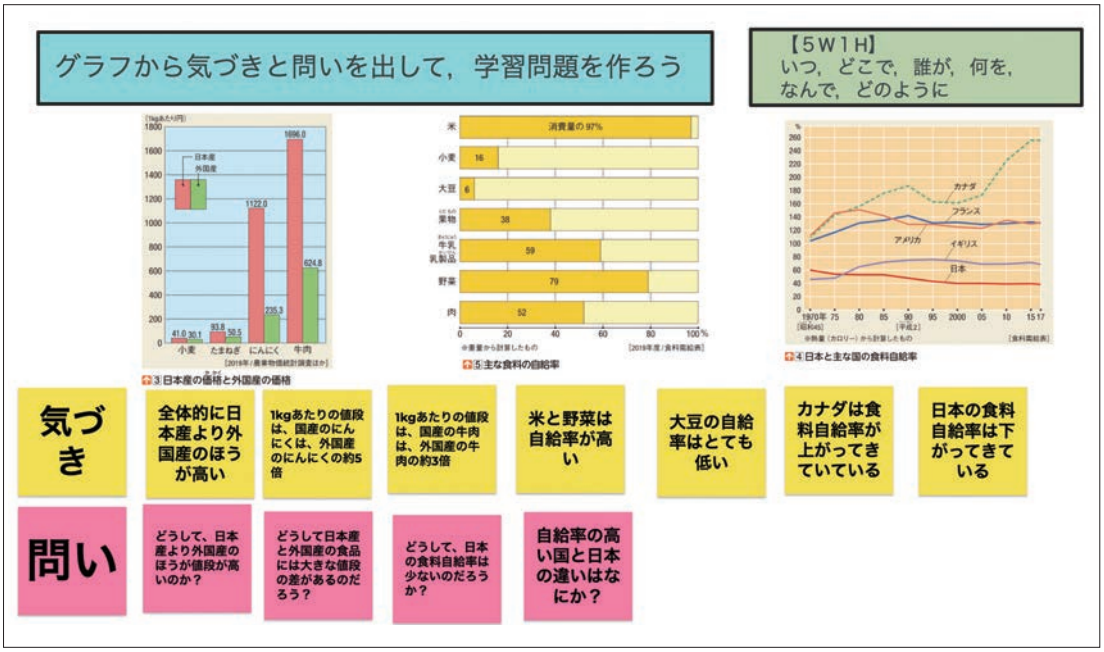
事例 01

小学校・社会科（5年）

Google Jamboard

事例提供：信州大学教育学部附属松本小学校　織田裕二

家庭で情報の収集



社会科の学習で学習内容の情報の収集を家庭で行い、Jamboardにまとめてくるようにした。Jamboardは相互参照が可能な設定にし、他の児童の情報の収集のやり方を参考にできるようにした。授業では、集めてきた情報を整理したり関連づけたりしながら学習を進めたり自分の考えを形成したりすることに活動時間をたくさん使うことができた。

◆家庭での情報の収集の進め方を示す

５年社会「これからの食料生産とわたしたち」（東京書籍）の単元の第一時で、授業の課題に関する情報の収集を家庭学習で行うようにした。 Google Classroom を活用して、単元の課題や本時の課題を示し、学習の見通しを児童と共有した。そして、教員から「自分の家で課題に関する情報を家庭で集めてきましょう」という課題を出した。

しかし、ただ「家庭で情報の収集をしてきましょう」と指示を出しても、どうやってくればいいのか分からない児童がいたり、教科書やインターネットに書かれていることをただコピーしてくるだけになってしまう児童もいたりするだろう。そこで、情報の収集のやり方やグラフの読み取り方の指導を行った。

図１のように Jamboard を提示しながら、付箋に気づきや問いを色分けしながら１つひとつ書き出していくこと、できるだけたくさんの情報を書き出していくことを指導した。 はじめのうちは、このように型を示すことで、児童はやり方が分かって安心して学習に取り組むことができる。また、Classroom に、児童同士の Jamboard の相互参照ができるようにリンクを貼り付けた。

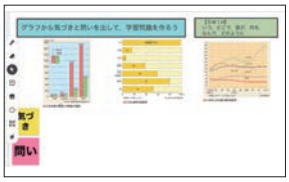


図１　授業で示した教員の情報収集の例

１人でも行うことができることを家庭で行うことにより、授業の時間で他の児童と意見を交流したり集めた情報から何が言えるのかをじっくりと考えたりすることができる時間を十分に確保することができた。

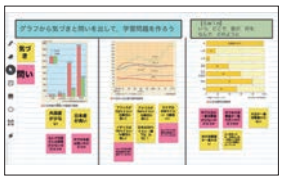


図２　児童が家庭で行った情報の収集

◆児童たちの実際の様子

児童は、家庭で、グラフから気づきと問いを書き出してきた。グラフから読み取れることを多く書き出してきた児童もいれば、問いを多く書き出してきた児童もいて、児童によって興味関心が違うことを見とることができた。

◆次の授業では、整理・分析やまとめを

情報の収集を行ってきた次の時間は、集めてきた情報からどんなことが言えるのかを整理したり分析したりして、分かったことをもとに自分の考えを書き出した。「友だちが集めてきた情報を見たい」との声が上がったため、相互参照したり、自分にはなかった情報を書き足したり、新たに得た情報はどの資料にあったのかを確かめたりする時間を確保した。たくさん情報を集めることができていた児童にどんなことを考えながら行ったかを聞いてコツを学級に広め、「次はもっとできそう」と、意欲をもつことができているようだった。

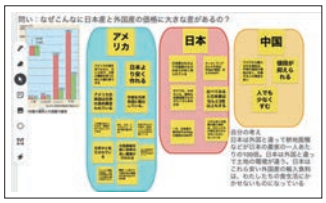


図３　授業で行った整理・まとめ

ここがポイント

はじめのうちはコツや型を示す

児童が家庭で情報の収集を行う際には、情報の収集のコツを Classroom の投稿に載せ、児童が課題を行う際に参照できるようにした。こういった足場掛けを行い、より妥当性の高い情報を集める経験を繰り返し行うことによって、児童たちは自分で情報の収集のコツを身につけ、いずれ自分自身の力で信頼性の高い情報を集めることが可能になっていく。

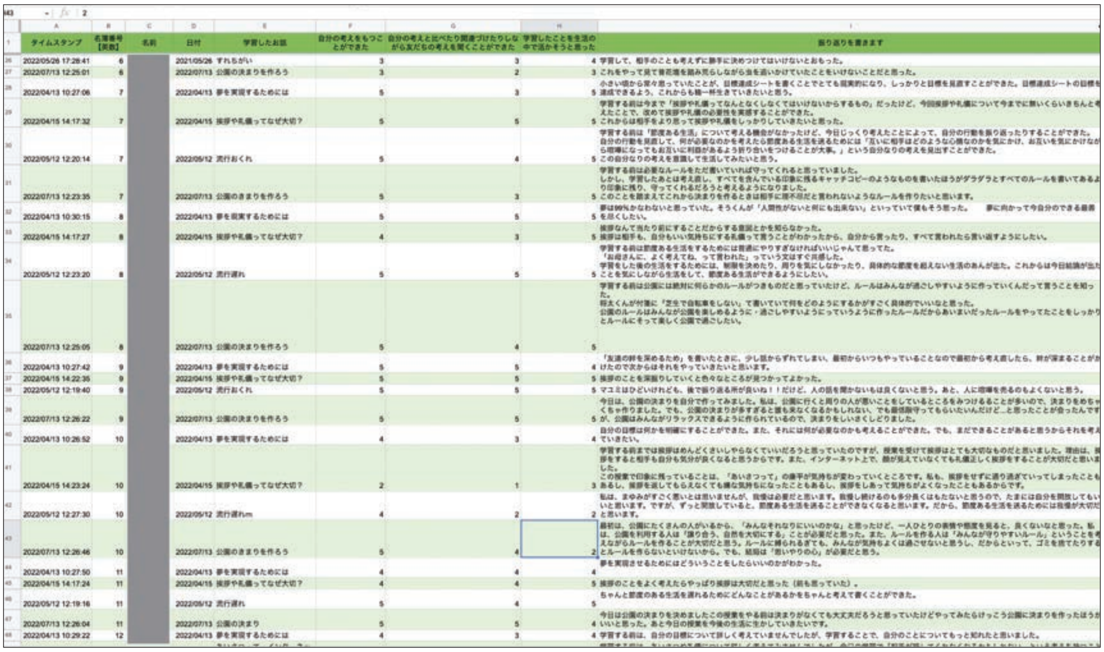
事例
02

小学校・全教科等（３年～）

Google フォーム、Google スプレッドシート、Google Chat

事例提供：信州大学教育学部附属松本小学校　織田裕二

家庭で学習の振り返りを



タイムスタンプ	名簿番号【[illegible]】	名前	日付	学習したお話	自分の考えをもつことができた	自分の考えと比べたり関連づけたりしながら友だちの考えを聞くことができた	学習したことを生活の中で活かそうと思った	振り返りを書きます
2022/05/26 17:28:41	6		2021/05/26	すれちがい	3	3	4	学習して、相手のことも考えずに勝手に決めつけてはいけないとおもった。
2022/07/13 12:25:01	6		2022/07/13	公園の決まりを作ろう	3	2	3	これをやって見て昔花壇を踏み荒らしながら虫を追いかけていたことをいけないことだと思った。
2022/04/13 10:27:06	7		2022/04/13	夢を実現するためには	5	3	5	小さい頃から常々思っていたことが、目標達成シートを書くことでとても現実的になり、しっかりと目標を見直すことができた。目標達成シートの目標を 達成できるよう、これからも精一杯生きていきたいと思う。
2022/04/15 14:17:32	7		2022/04/15	挨拶や礼儀ってなぜ大切？	5	5	5	学習する前は今まで「挨拶や礼儀ってなんとなくしなくてはいけないからするもの」だったけど、今回挨拶や礼儀について今までに無いくらいきちんと考えたことで、改めて挨拶や礼儀の必要性を実感することができた。これからは相手をより思って挨拶や礼儀をしっかりしていきたいと思った。
2022/05/12 12:20:14	7		2022/05/12	流行おくれ	5	4	5	学習する前は「節度ある生活」について考える機会がなかったけど、今日じっくり考えたことによって、自分の行動を振り返ったりすることができた。自分の行動を見直して、何が必要なのかを考えたら節度ある生活を送るためには「互いに相手はどのような心情なのかを気にかけ、お互いを気にかけながら喧嘩になってもお互いに利益があるよう折り合いをつけることが大事。」という自分なりの考えを見出すことができた。この自分なりの考えを意識して生活してみたいと思う。
2022/07/13 12:23:35	7		2022/07/13	公園のきまりを作ろう	5	3	5	学習する前は必要なルールをただ書いていれば守ってくれると思っていました。しかし、学習したあとは考え直し、すべてを含んでいる印象に残るキャッチコピーのようなものを書いたほうがダラダラとすべてのルールを書いてあるより印象に残り、守ってくれるだろうと考えるようになりました。このことを踏まえてこれから決まりを作るときは相手に理不尽だと言われないようなルールを作りたいと思います。
2022/04/13 10:30:15	8		2022/04/13	夢を現実するためには	5	5	5	夢は99%かなわないと思っていた。そうくんが「人間性がないと何にも出来ない」といっていて僕もそう思った。　夢に向かって今自分のできる最善を尽くしたい。
2022/04/15 14:17:27	8		2022/04/15	挨拶や礼儀ってなぜ大切？	4	3	5	挨拶なんて当たり前にすることだからする意図とかを知らなかった。挨拶は相手も、自分もいい気持ちにする礼儀って言うことがわかったから、自分から言ったり、すべて言われたら言い返すようにしたい。
2022/05/12 12:23:20	8		2022/05/12	流行遅れ	5	5	5	学習する前は節度ある生活をするためには普通にやりすぎなければいいじゃんて思ってた。「お母さんに、よく考えてね、って言われた」っていう文はすぐ共感した。学習をした後の生活をするためには、制限を決めたり、周りを気にしなかったり、具体的な節度を超えない生活のあんが出た。これからは今日結論が出た ことを気にしながら生活をして、節度ある生活ができるようにしたい。
2022/07/13 12:25:05	8		2022/07/13	公園の決まりを作ろう	5	4	5	学習する前は公園には絶対に何らかのルールがつきものだと思っていたけど、ルールはみんなが過ごしやすいように作っていくんだって言うことを知った。翔太くんが付箋に「芝生で自転車をしない」て書いていて何をどのようにするかがすごく具体的でいいなと思った。公園のルールはみんなが公園を楽しめるように・過ごしやすいようにっていうように作ったルールだからあいまいだったルールをやってたことをしっかり とルールにそって楽しく公園で過ごしたい。
2022/04/13 10:27:42	9		2022/04/13	夢を実現するためには	5	5	4	「友達の絆を深めるため」を書いたときに、少し話からずれてしまい、最初からいつもやっていることなので最初から考え直したら、絆が深まることがわ けたので次からはそれをやっていきたいと思います。
2022/04/15 14:22:35	9		2022/04/15	挨拶や礼儀ってなぜ大切？	5	5	5	挨拶のことを深掘りしていくと色々なところが見つかってよかった。
2022/05/12 12:19:40	9		2022/05/12	流行おくれ	5	5	5	マユミはひどいけれども、後で振り返る所が良いね！！だけど、人の話を聞かないもは良くないと思う。あと、人に喧嘩を売るのもよくないと思う。
2022/07/13 12:26:22	9		2022/07/13	公園の決まりを作ろう	5	5	5	今日は、公園の決まりを自分で作ってみました。私は、公園に行くと周りの人が悪いことをしているところをみつけることが多いので、決まりをめちゃくちゃ作りました。でも、公園の決まりが多すぎると誰も来なくなるかもしれない、でも最低限守ってもらいたいんだけど…と思ったことが合ったんですが、公園はみんながリラックスできるように作られているので、決まりを[illegible]ました。
2022/04/13 10:26:52	10		2022/04/13	夢を実現するためには	4	3	4	自分の目標は何かを明確にすることができた。また、それには何が必要なのかも考えることができた。でも、まだできることがあると思うからそれを考え ていきたい。
2022/04/15 14:23:24	10		2022/04/15	挨拶や礼儀ってなぜ大切？	2	1	3	学習する前までは挨拶はめんどくさいしやらなくていいだろうと思っていたのですが、授業を受けて挨拶はとても大切なものだと思いました。理由は、挨拶をすると相手も自分も気分が良くなると思うからです。また、インターネット上で、顔が見えていなくても礼儀正しく挨拶をすることが大切だと思いました。この授業で印象に残っていることは、「あいさつって」の勝手が気持ちが変わっていくところです。私も、挨拶をせずに通り過ぎていってしまったこともあるし、挨拶を返してもらえなくても嫌な気持ちになったこともあるし、挨拶をしあって気持ちがよくなったこともあるからです。
2022/05/12 12:27:30	10		2022/05/12	流行遅れm	4	2	2	私は、まゆみがすごく悪いとは思いませんが、我慢は必要だと思います。我慢し続けるのも多分長くはもたないと思うので、たまには自分を開放してもいいと思います。ですが、ずっと開放していると、節度ある生活を送ることができなくなると思います。だから、節度ある生活を送るためには我慢が大切だと思います。
2022/07/13 12:26:46	10		2022/07/13	公園のきまりを作ろう	5	4	2	最初は、公園にたくさんの人がいるから、「みんなそれなりにいいのかな」と思ったけど、一人ひとりの表情や態度を見ると、良くないなと思った。私は、公園を利用する人は「譲り合う、自然を大切にする」ことが必要だと思った。また、ルールを作る人は「みんなが守りやすいルール」ということを考えながらルールを作ることが大切だと思う。ルールに縛られるぎても、みんなが気持ちよくは過ごせないと思うし、だからといって、ゴミを捨てたりするとルールを作らないといけないから。でも、結局は「思いやりの心」が必要だと思う。
2022/04/13 10:27:50	11		2022/04/13	夢を実現するためには	4	4	4	夢を実現させるためにはどういうことをしたらいいのかがわかった。
2022/04/15 14:17:24	11		2022/04/15	挨拶や礼儀ってなぜ大切？	4	4	5	挨拶のことをよく考えたらやっぱり挨拶は大切だと思った（前も思っていた）。
2022/05/12 12:19:16	11		2022/05/12	流行遅れ	5	4	5	ちゃんと節度のある生活を送れるためにどんなことがあるかをちゃんと考えて書くことができた。
2022/07/13 12:26:04	11		2022/07/13	公園の決まり	5	5	4	今日は公園の決まりを決めましたこの授業をやる前は決まりがなくても大丈夫だろうと思っていたけどやってみたらけっこう公園に決まりを作ったほうがいいと思った。あと今日の授業を今後の生活に生かしていきたいです。
2022/04/13 10:29:22	12		2022/04/13	夢を実現するためには	4	3	4	学習する前は、自分の目標について詳しく考えていませんでしたが、学習することで、自分のことについてもっと知れたと思いました。

学習の振り返りをスプレッドシートやフォームに記入して本時を振り返り、次時への見通しをもつことを家庭で行った。そうすることで、自分が学習を通して分かったことや学び方についてじっくりと振り返ることができた。また、クラウドを通して児童は相互参照を行うことができ、振り返りをする際の書き方や観点を他の児童のものを参考にしながら書くことができた。

◆クラウドに振り返りフォームを用意する

これまでは紙のワークシートやノートに書かせていた振り返りを、クラウド上のファイルに記入できるようにした。

まず、Google Classroom に、「資料」を作成した。そしてフォームで図１の振り返りフォームを作成した。作成した際の項目は、①名前　②名簿番号　③日付　④観点別の自己評価　⑤文章による振り返り　の５項目。毎回同じ振り返り項目で振り返ることができるように、学習指導要領や教科書、指導書などを参考に項目の検討を行った。

授業で、フォームを使って振り返りを書くことや項目についての説明を行い、実際に書いてみた。児童全員が使い方を理解できたことを確認し、振り返りを家庭学習で行うようにした。

図１　振り返りフォーム

◆毎回の足跡を教員も児童も閲覧可能に

家庭学習で振り返りを行うことで、紙では行うことができなかった様々なことが可能になった。

まずは時間の確保。児童が自分のペースでじっくり書いたり内容や言葉を吟味したりしながら書くことができるようになった。フォームを用いて行うことによって、データの管理や閲覧を、教員だけでなく児童もできるようになった。

図２　振り返りをポートフォリオ化

これまでの紙の場合でも、児童はノートやファイルを見返しながら自分の変容を感じていたかもしれない。しかし、フォームを用いることによって、図２のように、回答をスプレッドシートに書き出すことができる。また、書き出したデータを単元や学習した順番など、任意の順番に並べ替えたり以前の内容を振り返ったりすることが容易にできる。これまでの自分の振り返りをポートフォリオのようにして、自己の成長や変化を教員だけでなく、児童も自覚できるようになったと感じる。

◆様々なアプリから最適な形を模索する

はじめのうちはフォーム＋スプレッドシートで行っていたものをChatで行ったこともある。Chatであれば、通知が即時に来ることや教員や児童同士に質問をしたり意見交換をしたりすることが可能である。それぞれのアプリの特性や利便性などを比較しながら児童と最適な形を探っている。児童の実態などに合わせて、アプリを選択していくとよいだろう。

図３　Chat での振り返りを試行

ここがポイント　振り返りの「型」を示して足場かけを

【総則編】学習指導要領（平成 29 告示）には、「（略）自己の学習活動を振り返って次に つなげる「主体的な学び」が実現できているか」と振り返りの重要性が述べられている。学習活動をどのように振り返り、どのように次につなげるのかの視点を示すことで、児童はだんだんと自分で振り返りの書き方を習得し、自ら振り返りができるようになっていく。はじめのうちは教員から「型」や書き方を示しながら、書かせていくとよいだろう。